

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	持続可能な利用のための伝統的技術の保存、新たな利用技術の開発
手法名	バイオマスエネルギーの活用技術
主体	森のエネルギー研究所
背景(地域の課題)	里地里山では、直接的な保全作業だけでなく、取り組みの結果生み出される資源活用が重要であり、資源の活用策が示されることで保全活動の持続性を確保されるとも言える。バイオマス利用技術は里地里山資源の新たな活用策として可能性が期待されるものとなっている。
手法/方策の詳細	<p>バイオマス利用の促進は、①化石燃料からの脱却、②継続的な里地里山の保全活用による生物多様性保全、③資源の地域内循環等の効果が期待できる。</p> <p>利用方法としては熱利用から素材製造まで現在様々なものが開発されている。CO2の削減など環境負荷低減という点から考えると基本的には効率が良いシンプルな方法が有利であると考えられる。利用する過程でCO2が過剰に排出されないよう留意する必要があることから、薪・炭の利用といった伝統的な活用方法の見直しも重要である。</p> <p>1) 熱として利用する手法 薪ボイラー、木質チップボイラー、ペレットボイラー等</p> <p>2) 発電利用する手法 バイオマス専焼発電事業(※)、火力発電所における石炭との混焼、ガス化発電</p> <p>3) 燃料利用する手法 エタノール化、ディーゼル燃料製造(FT合成技術)</p> <p>4) 素材として利用する手法 木粉やペレットの利用(猫砂等ペット用)、木質プラスチック</p> <p>※石炭等の化石燃料を混ぜないでバイオマスのみを燃焼させて発電する。</p>
手法・技術的視点	里地里山の保全と活用にバイオマスの利用と循環の視点を導入することで、今日的な課題である地球温暖化防止と生物多様性保全の両面からの新たな方策となり得る。新開発の技術だけではなく、伝統的な活用方法を取り入れる点に着目。

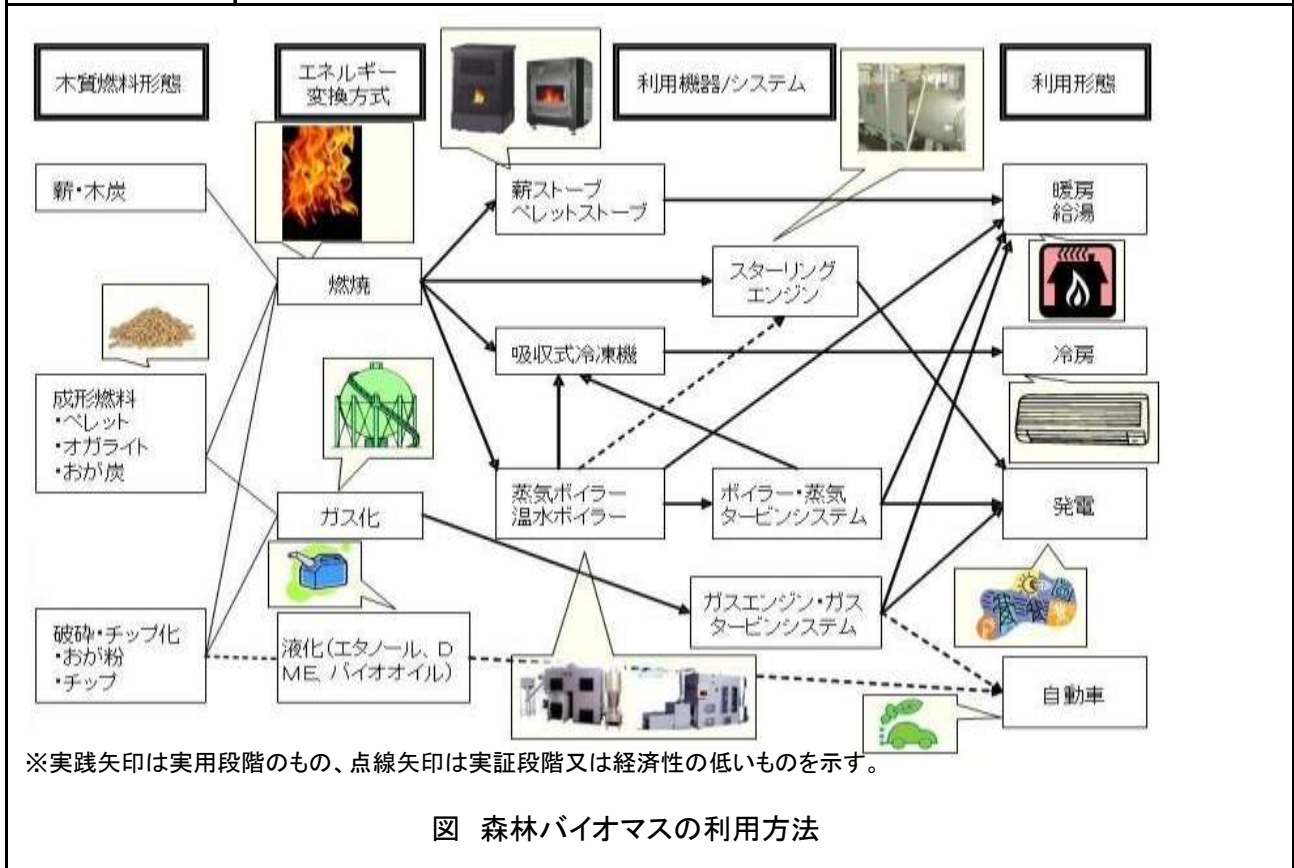


図 森林バイオマスの利用方法

参考資料	里なび研修会in千葉 森のエネルギー研究所代表 大場龍夫
------	------------------------------